

## 耳鼻咽喉・頭頸部外科

### ■ スタッフ

科長	竹内万彦	
副科長	小林正佳	
医師数	常勤	10名
	非常勤	2名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

#### 特色

#### 診療科の特色・診療対象疾患

三重県内唯一の大学病院・特定機能病院として、耳鼻咽喉科および頭頸部外科領域全般の疾患に対応しており、特に(1)頭頸部腫瘍、(2)各種中耳炎と先天性難聴、(3)鼻副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍・頭蓋底腫瘍、(4)嗅覚障害、味覚障害、(5)アレルギー性鼻炎に重点を置いています。また、国立病院機構三重病院と連携して小児の人工内耳診療も行っています。各疾患に対して特殊外来を設置し、それぞれ専門性の高い診療をしています。日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設、日本耳科学会認可研修施設、日本鼻科学会認可研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本頭頸部がん専門医制度指定研修施設、日本気管食道科学会認定専門医研修施設です。

### ■ 診療体制と特徴、実績

#### 診療内容の特色と治療実績

2019年度の延べ外来患者数は17,313名で、そのうち初診患者数は1,851名でした。新規入院患者数は668名でした。入院手術件数は469件で、耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の手術に広く対応しています。主な手術領域は、耳科手術、鼻科手術、口腔・咽頭・喉頭腫瘍手術、唾液腺手術、甲状腺手術です。その他に、院内の他診療科からの依頼による気管切開術やリンパ節生検も多数行っています。

また、夜間および休日でも、深頸部膿瘍、急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、鼻出血、異物などの耳鼻咽喉科および頭頸部外科領域の緊急疾患に対応しています。2019年度の救急患者数は140名でした。

頭頸部癌に対しては、原発部位、組織型、進行度に応じて、手術、放射線治療、化学放射線治療、動注放射線治療から最適な治療法を選択しています。放射線治療では、放射線科と連携して治療を行います。治療に伴う急性期有害事象に対しては、看護師が積極的にケアを行っ

ています。手術では、形成外科の協力を得て各種遊離組織移植を用いた再建手術を行っています。また、食道、縦隔、頭蓋内など他領域に進展する腫瘍に対しては、消化管外科、呼吸器外科、脳神経外科等と合同で手術をしています。

鼻副鼻腔疾患では、好酸球性副鼻腔炎、鼻副鼻腔良性・悪性腫瘍、嗅神経芽細胞腫などに幅広く対応しています。安全な手術のために、ナビゲーションシステムを活用しています。特に指定難病である好酸球性副鼻腔炎では、手術療法と保存的療法を組み合わせることで良好な治療効果が得られるように取り組んでいます。腫瘍性疾患も可能な限り内視鏡手術で施行し、鼻内内視鏡下での頭蓋底切除・再建術や眼窩、翼口蓋窩の切除術も行っています。他科と合同で行う経鼻的内視鏡手術も多く、脳神経外科とは下垂体腫瘍摘出手術、歯科口腔外科とは歯牙を温存する歯根嚢胞手術を行っています。また、希少疾患である原発性線毛運動不全症の精査・診断を行っています。

耳科疾患では、慢性中耳炎および中耳真珠腫に対する鼓室形成術、耳硬化症に対するアブミ骨手術、両側高度感音難聴に対する人工内耳植込術、末梢性顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術、側頭骨腫瘍に対する手術等を行っています。鼓室形成術では、経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)を取り入れています。

アレルギー外来では、アレルギー性鼻炎に対して舌下免疫療法を行っています。

めまい疾患に対しては、温度刺激検査、前庭誘発筋電位検査(VEMP)、重心動揺検査などを行い、めまい全般の診療を行っています。難治性メニエール病に対しては、入院での内リンパ嚢開放術を行っています。

聴覚外来では、突発性難聴や高度感音難聴などの診療を行っています。突発性難聴に対しては、ステロイド鼓室内投与を行っています。また、臨床遺伝専門医が難聴の遺伝子診断を担当しています。

補聴器外来では、適切な補聴器装用のために、補聴器適合検査を行っています。

嗅覚・味覚障害に対して、全国でも有数の専門外来を設置して診療しています。三重県のみならず、県外からも多数の方が受診されています。保存的治療のほかに、鼻副鼻腔炎や鼻腔形態が原因の例に対しては手術治療も施行しています。改善率は、鼻副鼻腔炎による嗅覚障害で81%、感冒後嗅覚障害で83%と良好です。

嚥下障害に対しては、言語聴覚士とともに嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査で機能評価および診断を行っています。また、重症誤嚥に対しては誤嚥防止手術を行っています。

音声外来では、発声障害や嚙声の診断と治療

を行っています。音声リハビリテーションや入院による音声改善手術もを行っています。

医療設備：MRI、CT、PET-CT、核医学、超音波、各種内視鏡、手術用顕微鏡、マイクロデブリーダー、コブレーター、ナビゲーションシステム、電子スコープ（NBIシステムあり）、聴力検査機器、インピーダンス検査機器、聴性脳幹反応検査機器、耳音響放射検査機器、耳管検査機器、補聴器適合検査用機器、各種平衡機能検査機器、顔面神経検査機器、基準嗅力検査機器、味覚検査機器、鼻腔通気度検査機器、アコースティックライノメーター、音響分析装置などを設置しています。検査機器は、病院の電子カルテシステムに有機的に組み込まれ、検査結果を迅速に記録、参照できます。

[▶ http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/jibiinkou/](http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/shinryo/jibiinkou/)